



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月9日

上場取引所 東 名

上場会社名 東陽倉庫株式会社

コード番号 9306 URL <https://www.toyo-logistics.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒田 城児

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 山田 智樹

TEL 052-581-0251

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無： 無

決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	22,677	2.7	1,040	2.7	1,458	△5.0	1,331	7.6
2025年3月期第3四半期	22,077	4.6	1,013	3.2	1,535	4.4	1,237	6.6

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,910百万円 (31.2%) 2025年3月期第3四半期 1,456百万円 (△3.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	176.78	-
2025年3月期第3四半期	163.58	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	50,199	27,989	55.8
2025年3月期	48,587	26,645	54.8

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 27,989百万円 2025年3月期 26,645百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	-	30.00	-	30.00	60.00
2026年3月期	-	30.00	-	-	-
2026年3月期（予想）	-	-	-	40.00	70.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

2. 2026年3月期（予想）の期末配当金の内訳 普通配当 30円 記念配当 10円（設立100周年記念配当）

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,500	1.1	1,250	0.7	1,750	△5.8	1,500	0.3	199.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績予想の修正については、本日（2026年2月9日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期3Q	7,864,990株	2025年3月期	7,864,990株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年3月期3Q	357,999株	2025年3月期	288,061株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2026年3月期3Q	7,529,855株	2025年3月期3Q	7,564,063株
------------	------------	------------	------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 有（任意）

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P. 2
(1) 当四半期の経営成績の概況	P. 2
(2) 当四半期の財政状態の概況	P. 2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 3
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 3
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	P. 4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 5
(セグメント情報等の注記)	P. 5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 6
(継続企業の前提に関する注記)	P. 6
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	P. 6

公認会計士又は監査法人による期中レビュー報告書

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、雇用環境の改善や堅調なインバウンド需要等により、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、資源価格や原材料価格の高騰に伴う物価上昇に加え、米国をはじめとする各国の通商政策の動向や、日中関係の悪化等に対する懸念も高まり、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような事業環境の中、当社グループは、①運送体制と流通拠点の強化による3PL物流の推進、②海外拠点の拡充を含めたグローバルな業務の強化、③不動産賃貸料等の安定収入の拡大を進めてまいりました。

また、当社グループは、持続的成長と中長期的な企業価値の向上に努め、営業収益の拡大を図るとともに、収益性及び経営効率の観点から、「売上高経常利益率5%」、「自己資本利益率5%」を目標値として設定しております。

事業のセグメント別及び連結の業績は次のとおりであります。

#### <物流事業>

保管料、荷役料、陸上運送料等が増加したことにより、営業収益は前年同四半期と比べ635百万円増加(2.9%)し、22,202百万円となりました。セグメント利益は前年同四半期と比べ81百万円増加(6.3%)し、1,374百万円となりました。

#### <不動産事業>

賃貸料収入、工事の請負収入が減少したことにより、営業収益は前年同四半期と比べ35百万円減少(△7.0%)し、475百万円となりました。セグメント利益は前年同四半期と比べ11百万円減少(△5.6%)し、198百万円となりました。

#### <連結>

上記の結果、営業収益は前年同四半期と比べ599百万円増加(2.7%)し、22,677百万円となりました。営業利益は前年同四半期と比べ27百万円増加(2.7%)し、1,040百万円となりました。経常利益は持分法による投資利益が減少したこと等により、前年同四半期と比べ76百万円減少(△5.0%)し、1,458百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は固定資産売却益が減少したものの、投資有価証券売却益が増加したこと等により、前年同四半期と比べ93百万円増加(7.6%)し、1,331百万円となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、現金及び預金が748百万円減少したものの、受取手形、営業未収入金及び契約資産が665百万円、有形固定資産が618百万円、投資有価証券が781百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ1,612百万円増加(3.3%)し、50,199百万円となりました。

負債につきましては、未払法人税等が291百万円減少したものの、長期借入金が460百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ268百万円増加(1.2%)し、22,209百万円となりました。

純資産につきましては、自己株式の取得等に伴い自己株式が増加したことにより113百万円減少したものの、利益剰余金が876百万円、その他有価証券評価差額金が596百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ1,343百万円増加(5.0%)し、27,989百万円となりました。

当社グループは、持続的成長へ向け、積極的な設備投資を実施する方針であります。同時に、有利子負債残高、金利水準等に留意しながら安定的な財政状態を維持するよう努めてまいります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2025年5月12日に公表しました通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2026年2月9日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,346,666	5,597,797
受取手形、営業未収入金及び契約資産	5,610,581	6,276,323
リース債権及びリース投資資産	102,424	101,979
原材料及び貯蔵品	61,687	72,832
その他	590,271	1,068,980
貸倒引当金	△2,723	△648
流動資産合計	12,708,907	13,117,264
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,231,579	13,722,662
土地	10,130,914	10,130,914
その他(純額)	4,369,752	1,497,247
有形固定資産合計	24,732,245	25,350,824
無形固定資産		
	252,557	265,192
投資その他の資産		
投資有価証券	8,708,425	9,490,261
リース債権及びリース投資資産	591,009	514,663
その他	1,595,684	1,463,030
貸倒引当金	△1,701	△1,608
投資その他の資産合計	10,893,417	11,466,347
固定資産合計	35,878,221	37,082,363
資産合計	48,587,129	50,199,628
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,841,386	2,023,301
短期借入金	4,466,600	4,443,250
未払法人税等	420,919	129,201
引当金	335,492	82,594
その他	1,407,874	1,382,237
流動負債合計	8,472,272	8,060,584
固定負債		
長期借入金	10,264,000	10,724,950
引当金	28,500	28,500
退職給付に係る負債	927,165	859,502
資産除去債務	127,845	129,528
その他	2,121,503	2,406,917
固定負債合計	13,469,013	14,149,397
負債合計	21,941,286	22,209,982
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,412,524	3,412,524
資本剰余金	2,217,339	2,218,599
利益剰余金	18,985,562	19,862,206
自己株式	△384,724	△498,484
株主資本合計	24,230,702	24,994,847
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,027,943	2,624,272
退職給付に係る調整累計額	387,196	370,526
その他の包括利益累計額合計	2,415,139	2,994,798
純資産合計	26,645,842	27,989,645
負債純資産合計	48,587,129	50,199,628

## (2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
営業収益	22,077,594	22,677,252
営業原価	20,360,275	20,896,828
営業総利益	1,717,319	1,780,424
販売費及び一般管理費	704,225	740,101
営業利益	1,013,094	1,040,322
営業外収益		
受取利息	1,230	1,848
受取配当金	164,425	188,975
持分法による投資利益	376,541	267,377
その他	33,804	42,574
営業外収益合計	576,002	500,776
営業外費用		
支払利息	47,388	76,818
その他	6,582	5,972
営業外費用合計	53,970	82,790
経常利益	1,535,125	1,458,308
特別利益		
投資有価証券売却益	—	325,548
受取保険金	—	40,000
固定資産売却益	176,405	12,120
受取補償金	—	9,546
投資有価証券清算益	—	55
特別利益合計	176,405	387,270
特別損失		
事業所移転費用	11,226	11,855
固定資産除売却損	2,534	10,366
訴訟関連損失	—	3,673
損害賠償損失引当金繰入額	40,000	—
特別損失合計	53,760	25,895
税金等調整前四半期純利益	1,657,770	1,819,684
法人税、住民税及び事業税	375,590	325,364
法人税等調整額	44,838	163,187
法人税等合計	420,428	488,552
四半期純利益	1,237,342	1,331,131
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,237,342	1,331,131
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	229,394	596,328
退職給付に係る調整額	△10,029	△16,669
その他の包括利益合計	219,364	579,659
四半期包括利益	1,456,707	1,910,790
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,456,707	1,910,790

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## I 前第3四半期連結累計期間(自2024年4月1日至2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	物流事業	不動産事業	合計
営業収益			
外部顧客への営業収益	21,566,878	510,716	22,077,594
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	378	378
計	21,566,878	511,094	22,077,972
セグメント利益	1,293,098	209,754	1,502,852

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,502,852
全社費用及び全社営業外損益(注)	32,272
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	1,535,125

(注)全社費用及び全社営業外損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び管理部門の営業外損益であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2025年4月1日至2025年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	物流事業	不動産事業	合計
営業収益			
外部顧客への営業収益	22,202,715	474,536	22,677,252
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	1,001	1,001
計	22,202,715	475,537	22,678,253
セグメント利益	1,374,269	198,065	1,572,334

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,572,334
全社費用及び全社営業外損益(注)	△114,026
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	1,458,308

(注)全社費用及び全社営業外損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び管理部門の営業外損益であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,099,039千円	1,152,057千円



独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年2月6日

東陽倉庫株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人  
名古屋事務所

指定有限責任社員 公認会計士 金原正英  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 樋口幹根  
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている東陽倉庫株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所及び株式会社名古屋証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項並びに我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRL データ及び HTML データは期中レビューの対象には含まれていません。